

久留米

[March 20, 2019]

高専通信

第88号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

卒業生・修了生に贈ることば 直感、感性、美意識を磨く

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。久留米高専での5年または7年の修学期間に皆さんが積み重ねてきたご研鑽とそれを支えて来られた保護者の皆様のご篤志に深く敬意を表します。

皆さんは、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という教育理念のもとに開設されている久留米高専の一般科目及び各専門学科や専攻科各専攻の教育プログラムを見事修了し、栄えある卒業と修了というこの佳き日を迎えました。今後は、久留米高専で学んだという矜持を心のどこかに宿し、品位を保ち、堂々と胸を張って人生を歩んで行ってください。

ご卒業・ご修了に際して、皆さんがこれからエンジニアとして必要となるであろう一つの資質について申し上げたいと思います。

気鋭の経営コンサルタントであり、哲学徒でもある山口周さんは、その著作『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?—経営における「アート」と「サイエンス」』（光文社新書、2017年）の中で、「不安定」(Volatility)「不確実」(Uncertainty)「複雑」(Complexity)「曖昧」(Ambiguity)、いわゆるVUCAとして語られる今日の世界の状況において、ビジネスエリートに求められるのは、「要素還元主義的の論理的アプローチ」ではなく、「全体を直感的に捉える感性と、「真善美」が感じられる打ち(つ)手を内省的に創出する構想力や創造力」だと述べておられます。とりわけ、「美意識」は、イノベーションの結果生ずる市場や企業倫理を考えるうえでとくに重要だとされています。すなわち、山口さんは、「グローバル企業の幹部候補、つまり世界で最も難易度の高い問題の解決を担うことを期待されている人々は、これまでの論理的・理性的スキルに加えて、直感的・感性的スキルの獲得を期待され、またその期待に応えるように、各地の先鋭的教育機関もプログラムの内容を進化させ、「美意識」を鍛えていると



久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二

いうことに着目しているのです。そして、高い美意識によりエンジニアリングの世界で成功を博した事例として、ソニーのウォークマンやアップル社のiMac、前田育男氏のデザインになるマツダの各車種などを挙げておられます。

優れた感性と審美眼を持ちグローバル企業を育て上げた人は、私たちの身近にもおられます。久留米が輩出した偉大な企業家石橋正二郎さんです。ご承知のとおり、石橋正二郎さんは、タイヤメーカーブリヂストンの創業者であると同時に、西洋や日本の近代絵画の収集家でもありました。石橋正二郎さんの美意識を、私たちは、久留米市美術館(旧石橋美術館)や石橋文化センターの庭園、あるいはブリヂストン美術館(2020年からアーティゾン美術館)の中で感じ取ることができます。

また、久留米の生んだ稀代のエンジニアである井上伝さんが考案した久留米絊も、同じく田中久重さんが発明した数々のからくりも、美しさを伴っていなければ決して歴史にその名を刻むことはなかったのではないかと考えます。

久留米高専は冒頭に触れた教育理念の中に「豊かな心」(Humanity)の涵養を謳い、リベラルアーツ教育を重視し、一般教養科目として美術や哲学系の科目を開設しています。筑後川が醸成する豊かな自然の中で、数々の先人エンジニアの後ろ姿を見ながら、久留米高専で直感力や感性、美意識を磨いたことは、卒業生・修了生の皆さんが、将来エンジニアとして活躍するうえでの一つの大きなアドバンテージになるものと確信しています。

江戸時代後期、現在の大分県の日田で私塾咸宜園を営んだ教育者、広瀬淡窓^{さんけつ}さんは、「三訣」を座右の銘の一つとしたと伝えられています。「学問に努め、努力を惜しまず、健康に注意すること」の三つです(末廣利人『広瀬淡窓』日田市教育委員会、2016年)。卒業生・修了生の皆さんも、将来にわたって、学び、努力し、健康に留意されて、日本で、そして世界で、活躍されて行かれますよう心より願っております。

卒業生の言葉

自由

機械工学科5年 占野 誠弥

「卒業したくない。」そんな想いが日々大きくなります。5年前の桜舞い散るこの季節、夢と希望を胸に秘め、私たち54期生が入学しました。入学時は15歳。最上級生との年の差は4つ？もあり、その姿に、大人だな、あんな風になれるかなと思うと同時に、自分たちがこうなるのはまだまだ先だろうと思っていました。そんな、久留米高専の歴史を作ってきた先輩方と今、同じ年齢になり、卒業を迎えようとしています。私たちは、久留米高専に何か残すことができましたでしょうか。

1年生の最初にして最大のイベント、夜須研が静かに終了。2年生、高橋先生に地に足がついていないと言われる。野鳥観察にハマる。3年生、高速旋盤用バイトを盛大に破壊する。4年生、高専祭のメインストリートのド真ん中でフランクフルト健児をする。5年生、放課後、宮崎への弾丸旅。竹取の廃止。体育祭でとんでもないことをしました。大変申し訳ありませんでした。

振り返ってみると、悪いことしか残せていない気がします。しかし、独自のルートで調査をした結果、後輩たちは口をそろえてこう言います。「先輩たちのようになりたい」と。この言葉を聞いた時、私は、ハッとしました。私たちが1年生の時に憧れたのは、確かに当時の5年生です。しかし、本当に憧れたのは久留米高専の校風『自由』に適応し、『自由』を賢く使い、それでいてやるべきことをきちんとこなすことのできる人間だったのだと思います。私たちは『自由』を与えられ、存分に使い、久留米高専という環境の居心地がいいから「卒業したくない」と思うのだと思います。

しかし、『自由』とは誰にでも与えられるものなのでしょうか。もちろん、体育祭での私のような行動をとるような輩がいれば『自由』はなくなるでしょう。絶対にしないでください。また、私たちが入学してから5年間だけでも久留米高専の『自由』はだいぶ制限されてきたと思います。それは、私たちの言動が年々『自由』に値しなくなっているからでしょう。私たちは僅かではありますが、『自由』という大きなものを残せたんじゃないかと思います。

私は久留米高専という最高の環境に5年間在籍できたことをとても誇りに思います。その誇りを胸に「俺が、俺たちが日本を変えてやる」という気持ちを持って、次のステージに進みたいと思います。ポンコツな私たちに勉強を教えてくださいました教職員の方々、5年間支えてくれた両親、一緒に過ごしてきたクラスメイト、皆様に感謝いたします。出会いと別れが交差する今日このごろ、久留米高専のこれからを担っていく後輩たち、に一言送り、卒業の言葉とさせていただきます。「俺たちみたいにはなるな。」

感謝

電気電子工学科5年 和知 祐作

久留米高専で5年という月日を過ごし終わったということに驚くばかりです。もうすぐで卒業だということを最後の授業や最後のテスト、卒業研究から実感するたびに寂しい気持ちがこみ上げていました。自分の中で5年間同じ教室で学んだ仲間たちとの思い出はかけがえのない宝物です。入学式の後の距離感のあるコミュニケーション、宿泊研修で一緒にフィールドワークをしたことなどを今でも昨日のこのように思い出します。一緒にいる時間が増えることで揉め事が起こったこともありましたが、自分たちのクラスは担任をしてくださった先生方はもちろんのこと授業をしてくださった先生方もたくさん困らせました。かなり甘い言葉で言えば個性的なクラスだったという印象です。まるで先生方を困らせていないかのようにこの文章を書いている現在の自分も提出期限を忘れて担任の山本先生を困らせているところです。笑ったり、ふざけたり、たまに揉めたりいろんなことが起きるこのクラスで全員揃ってもう授業を受けることがないのは、とても名残惜しく、もっと一コマ一コマきちんと受けていたらと思います。どこのクラスにもあてはまりませんが、他の大学に進学する人、久留米高専の専攻科に残る人、企業に就職する人様々います。これから住む場所はみんな離れ離れになり、新しい生活で苦労することや、5年間一緒にいた仲間たちが急になくなったことに寂しさを覚えることもあると思います。自分も正直、新生活には期待よりも不安の方が大きいです。しかし、楽しみなこともあります。自分たちの青春とも言える15歳から20歳までの長い5年間を共に過ごした仲間がそれぞれ別々の環境に行って、また10年後、20年後に再会した時に高専生活での思い出をみんなで笑いながらできたら、想像するだけでどんなに幸せだろうと思います。クラス替えがなく新しい人間関係が増えなかったことは少し後悔する部分ではありますが久留米高専で同じメンバーで過ごした濃い5年間は自分の人生においてかけがえのない時間になると思います。高専での経験を自分の糧としながら、久留米高専を卒業した後、この個性的な仲間たちに負けないように日々努力を重ねて、いつか再び再開する日までしっかり生きていこうと思います。54期の電気電子工学科のみんなと2年間たくさん迷惑をかけお世話になった山本先生にはとても感謝しています。

「ありがとうございました」

卒業生の言葉

54期制御情報工学科

制御情報工学科 5年 千綿 政幸

私たち54期制御情報工学科には、5年間同じ教室で学んだ人、海外へ留学した人、後輩になった元同級生、学校をやめてしまった人など様々な人がいます。そんなたくさんの仲間とこの学校で出会いました。

私は、このクラスが非常に個性的であったと心から思います。個性的というのは、よく言えばの話で、悪く言えば協調性がないということです。学校行事に無頓着な人も多かったと思います。私は、文化祭の日は16時に目覚めました。しかし、長所と短所は表裏一体で、クラスメイトの多様性には本当に驚かされる毎日でした。

休み時間ずっとギターを弾いている人、Youtuber、ドローン少年、常に何らかのタスクに追われている人、みんなそれぞれに好きなことをもって、自分がやりたいことに対して本気な人たちでした。そして、お互いの好きなものを尊重しあえるクラスでした。中学では、その趣味を人とは違うからとバカにされたものも、ここでは個性としてのびのびとしていました。私は、自分が好きなものを好きということができ、それに没頭することができるのが、54S、ひいては久留米高専の長所だと5年間を過ごして感じています。

15歳から20歳という人生でとても密な時間をこの学校で過ごしました。まさに子供から大人になる大事な、大事な時間でした。正直、普通高校に進学すれば良かったと中学の自分の進路選択を後悔したこともありましたが、しかし、5年間高専で過ごし、高専の仲間たちに出会えて本当に良かったと思います。もし中学生に戻っても、私はまた久留米高専制御情報工学科を選ぶと思います。

これから先、まだまだ未熟な私たちにはたくさんの試練が待ち受けているでしょう。しかし、ここで学んだことを武器に、久留米高専の卒業生という誇りをもって、胸を張って生きていきたいと思っています。

最後になりましたが、不出来な私たちをご指導くださった先生方、サポートしてくださった学生課の方々、その他久留米高専にかかわるすべての方々に深く感謝申し上げます。そして、支えてくれた家族にも本当に感謝しています。たくさんの方に助けていただいたおかげで今の私たちがいます。これからも、感謝を忘れずに力強く飛躍していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

ありがとう

生物応用化学科 5年 森田 真帆

入学当初、長いだろうと思っていた久留米高専での5年間はあっという間に過ぎ去り、もう卒業を迎えることとなりました。たくさんの不安を胸に入学したあの頃は、こんなに充実した5年間になるとは想像もつきませんでした。

入学してすぐは、初めて会う人ばかりで、教室に緊張感が漂っていました。それから、同じ授業を受け、昼休みにお弁当と一緒に食べ、共有する時間が増えるにつれ徐々に打ち解けた覚えがあります。あの頃から5年たった今では、教室がとても居心地の良い空間となりました。それは、長い時間の中で、長所・短所を含めお互いを認め合い、理解しているからだと思います。私達のクラスは、積極性が持ち味で、クラスマッチや高専祭の出店などに意欲的に参加してきました。それにより、クラス全体でコミュニケーションが取れ、和気あいあいとした雰囲気になったのかなと思います。

特に、5年生での高専祭、体育祭は最高に楽しかったです。何ヵ月も前から高専祭でのダンス（K R M 4 8）の練習、体育祭での応援団や殺陣の練習に多くの時間を費やし、より良く魅せるために努力を惜しまない、みんなの姿が印象に残っています。本番当日も練習の成果を発揮し、どちらも良い成績を収めることができました。みんなで頑張る楽しさを改めて感じ、さらに結果にも繋げることができ、本当に楽しかったです。

最後になりましたが、この5年間、たくさんの先生方、学校関係者の方々にお世話になりました。勉強のこと、進路・就職の相談、様々な支援など、私達が学びやすい環境を作ってくださいました。また、家族には色々心配や迷惑をかけましたが、どんな時も常に支えてくれました。このように、たくさんの方々のおかげで、無事に高専生活を終えることができること、心から感謝しています。本当に、ありがとうございました。

今まで一緒に過ごしてきたクラスのみんなとは、これから、日本全国バラバラに離れ、それぞれが新たな道へ進みますが、この5年間で忘れず、同じ教室に居られなくてもお互い支えあえる存在でありたいです。みんな... ありがとう。



卒業生の言葉

あとがき

材料工学科 5 年 志岐 瑞帆

「あなたは将来何がしたいですか？」時々聞かれるこの質問に僕はいつも戸惑ってしまいます。僕は兄と父が久留米高専の卒業生でした。久留米高専を知ったきっかけもこの学校に行きたいと思うようになったのも家族によるものでした。だからこの学校に入って具体的に何がしたいという目標が当時の僕にはありませんでした。きっと今この文章を読んでくれている在学生にも僕と似たような思いを持っている人、中にはこの学校に入ったことを後悔している人もいるのではないのでしょうか。僕も後悔とまではいきませんが「違う学校に通っていたら今頃どうなっていたのだろう。」と思ったこともありました。だけど今、僕はこの学校に来て本当によかったと心から思っています。

そう強く思うようになったのはつい最近のことでした。僕は小中学生の頃、今とは比べ物にならないくらい暗い人で、人から褒められたりしても本当はどう思っているのだろうかとか本当は自分のことを嫌っているんじゃないかと考えてしまうほどでした。

そんな考え方を大きく変えてくれたのは5年生の体育祭で看板長をしていた時でした。僕はあまりいいリーダーとは言えませんでした。人を動かすことが苦手でドジもよくするし、しまいには当日に風邪をひいてしまう始末です。そんな僕に何も文句を言わずついてきてくれた仲間自然と今までのような考えは生まれませんでした。

体育祭本番が近づき、看板もほぼ完成した頃、手伝ってくれていたみんなが「祝 看板完成!」と書かれたケーキを持ってきてくれたのです。その時、僕は本当にいい人たちに出会えたんだなと思いました。あの時はあと少しで泣きそうでした。当時の写真を見ると、もう一度やりたいなんてことを思ってしまいます。

後悔したって、目標を見つけられずに迷ったっていいと思います。今、みなさんの周りにいる人たちは自分が後悔している道を選ばなければ出会えなかった人たちです。どうかそのつながりを大切にしてください。そしてこの学校に来てよかったと思える何かを見つけることが出来たらそれはとても素敵なことだと思います。



修了生の言葉

久留米高専を最後に

機械・電気システム工学専攻 2 年 佐藤 巧

『高専って高校？それとも大学？』、これは本科5年間と専攻科2年間の計7年間の高専生活の間、私が最も説明に悩まされてきた質問の1つであったのかも知れません。この質問をされる機会がもうないと思うと嬉しいような寂しいような気持ちになります。学生生活の大半を久留米高専で過ごしてきて、今思い返してみると学校行事から日々の他愛もない話まで数えきれない程の思い出が頭に浮かべられます。その中でも今回は専攻科2年間の話をしたいと思います。

私が専攻科2年間で最も身についたと思うことは人前でのプレゼンテーション能力です。専攻科では、英語をはじめとするプレゼンテーション中心の授業が多く、自分の意見を他人に伝える機会が多かったような気がします。特に、学会での口頭発表を2回も経験させていただいたことはとても記憶に残っています。初めて学会で口頭発表をすることが決まり、発表に向けて実験やデータ整理に追われていたある日、なかなか良い結果が得られず、また要旨のメ切りが迫っていたこともあり、指導してもらっている先生に恥ずかしながら講演の取り下げを相談したことがありました。というのも、私の性格上、中途半端な結果のまま発表することにあまり納得できずにいました。その時、指導してもらっている先生から

「1から10まで完璧にできることなんて滅多にないよ。」と言われ、時には割り切ることも必要だと思い、なんとか発表をすることができたことを覚えています。今までは自分が納得いくまで時間をかけて取り組んでいましたが、このお言葉を頂いたことを機に、決められた時間の中で最大限の成果を出すにはどうしたら良いかということに特に関心するようになりました。また、その学会発表で私が興味を持った研究室で来年度から大学院生活を送れるようになったため、あの時発表させていただいて本当に良かったと今では思っています。一般の大学生では味わえないような経験をさせてもらって、専攻科に入学して良かったと思っています。

いよいよ専攻科の2年間が終わりますが、専攻科で共に過ごした34期生34人との高専での活動が終わりに思うと、とても名残惜しく思います。

最後に、機械工学科をはじめとする今までお世話になった先生方や事務の方々、毎朝落ち葉や銀杏を掃除してもらっていた地域の方々、そして今まで支えてもらっていた家族に感謝の意を申し上げます。

修了生の言葉

高専生活を振り返って

物質工学専攻 2 年 坂巻 巧

皆様、ご卒業ならびに修了おめでとうございます。この文章を書きながら、高専を出るときが来たことを実感しています。青年期の大半を過ごした場所を離れることに寂しさを感じますが、その一方でようやく外の世界に踏み出せるのかという解放感に似た気持ちもあります。

思えば僕は高専生活で本当に人間関係に恵まれていました。あまり面白いことの言えない僕でしたが、高専の一時代を築いた川崎や見良津と友達になれたことは高専で得た財産だと思います。友人たちと昼夜問わず遊んだ本科の五年間は青春そのものでした。

一方、第一志望で進学した専攻科でしたが、はじめての半年は地獄のように感じていました。楽しい日々を過ごした半年前と同じ場所なのに友人たちは先に卒業し、後に残ったのは無機質な課題と研究に追われる日々だったからです。そして何より目標の無い毎日にうんざりしていました。

ここまで書くとは絶望の専攻科時代を過ごしたようになりますが、今は専攻科に入って良かったと心から思っています。はじめての半年こそ自分を見つけられず苦しい日々を過ごしていましたが、夏のインターンで九大工学府への進学という目標を見つけてからは、やるべきことが見え、目が覚めたようでした。受験勉強はもちろんのことですが、進学後に恥をかかないようにと研究への取り組み方が変わり、二年の春の金属学会九州支部ではポスター賞を受賞しました。そして夏の受験で無事に工学府に合格しました。本科の頃には考えもしなかった九大への進学です。

専攻科へ進学する皆さん、専攻科は無為に過ごすには苦しい場所です。しかし、目標を持って努力すれば、研究についても進学についても自分の力を高めてくれる優れた踏み台になります。どうか腐らずに頑張ってください。ちなみに偉そうなことを書きましたが、僕は専攻科の成績という点では腐りまくってました。

最後に、専攻科の二年間お世話になった川上先生、至らぬ点の多かった僕ですが、見放さずに最後まで学生の成長のためにと指導していただきありがとうございました。先生の教育者としての姿勢を心から尊敬しています。また、専門科目だけでなく礼儀や常識を叩き込んでくださった材料システム工学科の先生方ならびに一般科目の先生方、七年間本当にお世話になりました。

進学先の大学院での二年間、それから先の将来、高専で得たものを胸に精一杯頑張っていこうと思います。

工場見学旅行

工場見学旅行の思い出

機械工学科 4 年 奈須 匡哉

我々久留米工業高等専門学校機械工学科一同は、9月24日から28日の5日間、工場見学旅行に行きました。今回の工場見学旅行に於いては、東京・神奈川に赴き、3つの企業の工場を見学させていただきました。工場は日産自動車工場、牧野フライス製作所 厚木事務所、ANA機体整備工場を見学しました。日産自動車工場では、エンジンを組み立てる工程を見学し、その工程において、作業効率の向上及び、ヒューマンエラーの防止の工夫等が見られました。また、工場で使われている機械を体験し、以前に溶接する機械として使われていた、自動制御で絵を書く機械を見たりしました。牧野フライス製作所では、工作機械の製造現場を見学し、とても大きな工作機械があったり、刃物の運搬や切削が完全自動制御で行われる工作機械があったりして、衝撃を受けました。また、工場は清潔で、自分が想像していた工場のイメージとは、かなり違っていました。ANA機体整備工場では、羽田空港の機体整備工場を見学し、普段では決して見る事が出来ない、飛行機の整備や機体の内部を見る事ができ、貴重な体験になりました。工場見学の中で、高専のOBの方々との意見交換会が設けられ、高専の先輩方と話し合いをしたり、質問したりして、自分の将来について考える事ができた、良い意見交換会になりました。

工場見学旅行では、工場見学の他に、東京・神奈川の観光地を訪れました。浅草寺や日本科学未来館や国立科学博物館を訪れ、とても良い思い出になりました。特に、日本科学未来館では、かの有名なロボット、ASIMOを見る事ができ心に残りました。

工場見学旅行は、自分の将来について考えるとともに、クラスメイトと良い思い出を作る事ができた、とても有意義で楽しいものになりました。



工場見学旅行

工場見学旅行

電気電子工学科4年 永松 直樹

私たち電気電子工学科4年生は、9月24日から9月28日にわたって関東地区へ工場見学旅行に行きました。私たちは、JAXA筑波宇宙センター、日産工場、富士通株式会社、東京工業大学、東芝未来科学館などの施設を見学させていただきました。ここでは、日産工場、富士通株式会社、東京工業大学の3つを紹介します。

日産工場では、各車両のエンジンなどの製造を見学させていただきました。普段乗っている車のエンジンができていく過程を見るのはとても新鮮で印象に残っています。おなじに見えるエンジンでも、使用している部品や組み立て方が全く違いそれに応じてすばやく組み立てている従業員はとてもすごかったです。

富士通株式会社では、様々な製品の展示物を見学したり会社の人の話を聞いたりしました。年齢を当てるロボットがありクラスメイトが30代と診断されてとても面白かったです。また会社の人や高専出身の人からお話をさせていただき将来のことを考える事ができ、とてもいい見学になりました。

東京工業大学では、各研究室とスーパーコンピュータTUBAMEを見学させていただきました。研究室は半導体やプラズマなどの分野の研究でどれもとても興味深い内容でこれからの研究室選びに役立ちました。スーパーコンピュータTUBAMEは思っていたより狭い部屋にたくさん並べられておりとても迫力がありました。

いろいろな場所を見学してきてその中で一番の私の思い出はクラスメイトと過ごした時間だと思います。クラス全員で中華街でご飯を食べたりして、宿泊先でのゲームや自由行動の日のディズニーランドなどすべてを全力で楽しめたと思います。この工場見学旅行でクラスの仲がより深まったと思います。

4泊5日の工場見学旅行は今後の自分の将来のビジョンを作る参考になり、非常に有意義なひとときを過ごすことができました。この旅行を計画してくださった旅行会社の方々や先生方、見学させていただいた会社の方々に感謝したいと思います。



工場見学旅行を終えて

制御情報工学科4年 山田 桃奈

本年度の制御情報工学科の工場見学旅行は担任の堺先生、1年時の担任だった川嶋先生引率のもと行われた。工場見学では、普段学んでいる分野と異なる分野の多様な業界を垣間見ることができ、自分はどの業界のどの分野で働きたいのか再考するよいきっかけとなったと思う。

初日はスカイツリー、浅草寺を観光。まだ着なれないスーツと履きなれないパンプスに、足が悲鳴をあげた。

2日目、「海洋研究開発機構」では高圧実験水槽装置について説明をうけ、また深海6500の模型の耐圧殻内部に搭乗した。強い圧力に耐えるよう、様々な技術が使われていた。続けて、「AGC株式会社」へ。「AGC株式会社」は2018年、グローバルグループ一体経営の総仕上げの位置づけから旭硝子株式会社から社名を変更。CMでは、シンプルに堂々とした印象で社名変更を伝える構成となっている旨の説明もうけた。実際私も、youtubeで流れているCM、高橋一生さんが口ずさむ、「旭硝子は、AGC～」を耳にしフレーズで覚えていた。社名変更は大きな決断であり、また認知してもらうための企業努力をととても感じた。

3日目、「JFEスチール」へ。鉄の製造過程の熱間圧延の見学。続けて、「国会議事堂」へ。参観ロビー、議員席のレプリカもあり、実際に座ってみる写真撮って楽しんでいた。次に本会議場。3階では、公衆席に座り「議長席」「貴賓席」「速記席」について説明を受けた。テレビで見なれた光景ではあるが、やはり着席してみるとまた違った光景が広がって見えたような気がした。

4日目は自由行動。私たちは川嶋先生と一緒にジブリの森に行き、昼食は蒙古タンメン「中本」でとった。友人は結構涼しげな顔で食べている一方、川嶋先生は汗ビショリ。その姿を写真に収めた。その後新大久保へ。kpopグッズと化粧品を楽しく選び、ホテルではおしゃべりに盛り上がる部屋、ゲームに盛り上がる部屋、物音ひとつ聞こえない部屋、それぞれの夜を過ごした。私たちは、日中全力で行動するため、意外にも夜更かしせず規則正しい生活を送ることとなった。



工場見学旅行

工場見学旅行を終えて

生物応用化学科4年 山田 光洋

私達生物応用化学科は、5日間の日程で東京に工場見学に行きました。初日は鎌倉観光で、鎌倉大仏と鶴岡八幡宮に行きました。



2日目は横浜ゴム株式会社と第一三共プロファーマ株式会社に行きました。横浜ゴムは、自動車タイヤのメーカーで、製品の分析や開発を見学しました。第一三共プロファーマは、医薬品を製造する第一三共グループの中で、製剤、物流を担う会社です。今回、医薬品を粉末の状態から錠剤など製品の形にする工程を見学しました。

3日目は大日精化工業株式会社とJNC株式会社に行きました。大日精化は顔料や機能性材料を製造している会社で、顔料の開発や分析の様子を見学しました。久留米高専出身の先輩も多く、OBの方々との食事の時間があり、会社の雰囲気についてや、進路のアドバイスをいただきました。JNCの市原製造所は京葉コンビナートにあり、石油化学製品や液晶原料を製造しています。工場全体の見学、そして、多くの化学工場が密集するコンビナートで安全対策について学びました。数年前の震災では、京葉コンビナートでガスタンクの爆発が起こり、JNCでも被害を受けたと伺いました。

4日目は自由散策でした。各自東京ディズニーリゾートや都内観光などに行きました。私は、新宿にあるVR ZONE新宿に行きました。VRをテーマにした施設でRPGやアニメのキャラクターと同じ視点でアトラクションに挑戦しました。最終日は東京スカイツリーと浅草に行きました。こちらは一度行ったことがあったのですが、クラス全員で行くとまた違った楽しさがありました。

工場見学旅行は、就職などのヒントを得られた貴重な機会でした。ですが、いつのまにか終わってしまったというのが正直な感想です。非常に楽しく有意義な一週間になりました。



工場見学

材料工学科4年 中西 賢斗

僕たち材料工学科は9月24日、福岡空港を出発し羽田空港へ移動しました。初日はJAXA宇宙センターに訪れました。宇宙兄弟も漫画の中で訪れるJAXA宇宙センターです。宇宙兄弟を読んだことのある僕としてはワクワクしました。展示館「スペースドーム」は人工衛星の試験モデルやロケット・輸送システムのスケールモデルが多数展示されており、貴重な経験になりました。

2日目はNIMS（物質材料研究機構）と日本冶金工業株式会社を見学させていただきました。NIMSでは物質・材料の研究のスケールが違い、試験時間が40年を超えるようなものもあり、日本の物質・材料の最先端の研究を見ることができました。実際にNIMSが開発した耐震補強材が建物に使われており、材料を勉強することは素晴らしいなと思いました。日本冶金工業株式会社では金属を溶解精錬し、 casting・圧延を同じ工場内で行っていました。工場内での挨拶は「ご安全に」と言います。安全に対する意識の高さがわかりました。

3日目は日本精工株式会社を見学させていただきました。日本精工株式会社はベアリングの高いシェア率を誇っており、久留米高専の先輩方がたくさん働いていらっしゃいました。先輩方が大企業で活躍していることを知りました。僕も先輩方に負けないよう、社会に出て活躍したいと思います。

最終日は株式会社アーステクニカとANAの機体工場見学をさせていただきました。株式会社アーステクニカは破砕機・環境リサイクル機器メーカーで、独自の古紙・廃プラスチック処理装置がありました。また、ANAでは間近で機体を観察することが出来ました。タービンは高温に耐えられる材料が使われていました。値段を聞くと驚きましたが、安全に機体を飛ばすために材料開発が進んでいるんだなと思いました。

工場見学旅行で色々な企業を見学させていただき、あと一年で高専を卒業する自分にとってとても良い経験となりました。あと一年で高専を卒業しますが、このままで大丈夫だろうかと自分が心配になりました。また、クラスメイトと過ごした5日間はとても楽しく、これからの将来について話すいい機会になりました。

工場見学旅行を楽しく過ごせたのは、いろんな方々の協力があってこそでした。工場見学旅行を企画し運営いただいた旅行会社の方々や先生方、そして見学を受け入れてくださった企業の方々に感謝したいと思います。



専攻科インターンシップ

大学院での経験

機械・電気システム工学専攻 1 年 上野 虎太郎

私は夏季休業中のインターンシップを九州大学総合理工学府物質理工学専攻 中島・光原研究室に受け入れて頂きました。

インターンシップ中、私は鉄鋼材料のレーザ焼入れ層の評価を行いました。これは私が専攻科研究基礎で行っている内容でもあります。高専では主に硬さという機械的性質を評価しています。インターンシップでは走査型電子顕微鏡（SEM）や電子線後方散乱回析（EBSD）を用いて、材料学的見地から焼入れ層を評価しました。

これらの方法では金属を構成するミクロな組織を観察することができます。組織を観察することで、「なぜその材料が硬いのか」といった材料がその特性を示す理由を知る手助けとなります。

しかし、インターンシップで最も大変で、時間を費やしたのは観察そのものではなく、その準備、すなわち観察するための試料の製作でした。レーザ焼入れを事前に高専で済ませた試料を九州大学に持ち込みました。九州大学では、その試料をファインカットで焼入れ層に対して直角に切断し、研磨します。この研磨作業が大変でした。紙やすりを目の粗いものから細かいものへ替えて磨き、その後ダイヤモンド砥粒でラッピングします。さらにコロイダルシリカという40nm程度の粒子が入った液でラッピングします。最後に汚れを取り除くために洗浄し試料作りは終了です。

一発でこれが上手くいくといいのですが、慣れない作業なのでなかなかうまくいきません。磨くのは時間をかけて丁寧に行えばわりと上手にできるのですが、洗浄が大変でした。しっかり洗わないと砥粒や磨きくずといった汚れはとれないのですが、洗浄は水で行うために気を抜くと試料が錆びます。特に私の試料は研究室で普段扱っている材料よりも錆びやすらしく難しいとのことでした。

試料を製作し、SEMやEBSDでの観察を行えました。操作は院生の方や先生に行っていただき、焼入れ層や母材の画像を撮影しました。この時に試料の焼入れ層が一般的な焼入れ層と若干異なることがわかり、新たな課題となりました。

インターンシップを快く受け入れていただき、直接的な研究の指導はもちろん、大学院での生活などのアドバイスをしていただいた、九州大学の中島教授はじめ、光原准教授、山崎助教、研究室の学生の方々、秘書の方、また研究の持ち出しを許可していただいた高専の細野先生、手続きをしていただいた谷野先生に感謝いたします。

専攻科インターンシップを終えて

物質工学専攻 1 年 坂田 凌平

私は8月20日から9月5日までにインターンシップとして日米ゴム株式会社に配属させていただいた。日米ゴム株式会社はゴムの町久留米市に在る、更生タイヤをはじめ糸ゴムや防舷材などの工業ゴムを製造している地域貢献企業である。品質方針のほかに省エネ、廃棄物の減量など環境問題を経営課題の一つと捉え、環境方針も掲げており持続可能な発展を心がけている。今回は新商品の開発、量産品の改善・管理試験等を行っている研究開発部に配属された。今回のインターンシップで行った実務内容と結果について簡単に紹介する。

まずゴムが商品として使ってよいかを判断する為に物性評価を行った。工業で使われるため基準値はブリジストン規格で細かく決まっている。

とある企業から絶縁筒（電気を通さない筒状の商品）の依頼があり、その商品開発に携わった。先ほどの物性評価が規則の範囲内であることを確認した後に実際に現場に立ち、加圧成型を行った。しかし成型において亀裂が入っていたり、穴が開いていたりしていたために適正量を算出しゴムの量を調節した。このおかげで商品の亀裂や破損の面は解決されたが、口頭指示でのミスが発生し、原料ゴムが間違っていた（伝導性のゴムを使っていた）ということが分かり作り直しになった。埋め込まれている金具を取り外す作業に取り掛かった（また新しい金具を取り寄せると生産性がとれなくなるため）。取り外す方法を思考錯誤した結果トルエンに漬け込むと金具がきれいに剥がれ、長時間つけても金具が錆びないことが分かった。また、以後このようなことが起きないようにチェックシートの作成も行った。ゴム種、成型ゴム重量、加硫条件の示し、確認チェックをさせることで未然にミスに気づくことができる。

今回は、研究開発の仕事である試験や製品の不良率の軽減の模索といった仕事内を行ったが、作業現場の仕込みから成形の流れを行ったり、社長と生産性について話し合ったり、いろんな目線で「企業」というものの中身を知れた。主では不良品の処理をやったのだが、普段の実験では経験することのない事であるため対処が難しかったが、開発部の方が状況を丁寧に教えてくれたので対策を立てやすく、コミュニケーションの大切さが改めて分かった。どの経験も今後の対応に生かしたいことばかりであったため、今回のインターンシップは今後社会で必ず活かしたいと感じた。

最後にインターンと快く受け入れてくださいました石丸茂夫代表はじめとした日米ゴムの会社の方々全員に感謝申し上げます。終わりとす。

国際交流関係

リパブリック・ポリテクニク（シンガポール）からの研究インターンシップ

生物応用化学科 萩原 義徳

昨年度から私は本校の企画主事補として、国際交流事業に携わっています。その主な業務の一つに、アジア地域で高専と協定を結んでいる大学等から、留学生を研究インターンシップ生として久留米高専に受入れ、2ヶ月から5ヶ月の間、研究活動を実施してもらうものがあります。工学を学ぶ留学生をそれぞれの専門分野に応じて、各学科（機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、生物応用化学科、材料システム工学科）とマッチングを行い、ご協力いただける指導教員の方々との共同研究を進めていただいております。

これまでに、タイからは年間約15名の大学生（学部3～4年生や大学院生）を、シンガポールのポリテクニク（実学における高等教育機関の一種。高等技術専門学校などと訳される）からは年間約5名の学生を受入れ、研究活動だけでなく、高専の英語授業参加などの国際交流を企画してきました。今回、リパブリック・ポリテクニクの留学生から、久留米高専での活動（2018年10月1日～2019年2月28日）におけるメッセージをもらいましたので、ご紹介いたします。

Mr. Lew Zhen Yuan Jordan

リュー チェン ユアン ジョーダン君

My name is Lew Zhen Yuan Jordan and I am from Republic Polytechnic. My research life in Kurume KOSEN was great. It was a great experience for me as I can learnt many new things that might not be taught in Singapore and able to expose to different culture. Also, I have made many new international friends and they made my internship more fun and enjoyable.

This internship helps me to be more responsible and independent. During my internship in Kurume KOSEN, I was given a project to complete. There are different tasks to do for the project. Hence from Monday to Friday, I went to the laboratory at 9.00am and start my research and complete the tasks one by one.

While I am having my internship in Kurume KOSEN, I was sent for a Hackathon competition. In the competition, I made many new friends from other KOSEN as well as friends from Hong Kong. My team includes 3 Japanese students. They are very polite and friendly with me. Even though the Hackathon competition is quite rush as we are only given 3 days to build a prototype and present it, but it is an enjoyable and fun experience for me as I learnt many new things in the Hackathon competition.

Mr. Chua Wee Siang Fraser

チュア ウィー シャン フレイザー君

The research I am doing is on deep learning specifically it is convolutional neural network, prior to coming to Japan I had limited knowledge about the project I had worked on, as time passed I have been able to understand the concepts behind deep learning at a steady pace.

During my internship in Japan I was given the opportunity to attend an international hackathon for training next generation engineers in Kitakyushu where students from the different National Institute of Technology over the whole of Kyushu-Okinawa district and students from Hong Kong VTC. This hackathon that we attended was on Internet of things, robots and natural disaster, at the end of the event I was honoured to be able to achieve the Sakura prize amongst the many other students participating.

Getting used to the lifestyle and culture here surely was not easy mainly due to the language barrier but thanks to the hospitableness from everyone we have met during our stay in Japan it has made things easier for us.

Mr. Muhammad Syakir Mikhail

ムハマド シャキール ミカイル君

Since the beginning of my 5-month internship in Kurume NIT, I have enjoyed my time in the campus. The facilities in the dormitory and laboratory are very high quality and convenient, and all the teachers and students are very helpful to us.

I completed my internship in the department of Control and Information Systems Engineering under Professor Kosuke Matsushima. The equipment and resources in the lab are very good, and my professor and fellow lab members have helped me very much in my progress. Professor Hagiwara is our caretaker during the internship period and always helps us to address any problems or questions we have.

My stay in the Kurume NIT dormitory was also very comfortable. The international students which were staying in the dormitory were very friendly and helped us to adjust well to living in Japan. The dormitory staffs are also very helpful to us in settling logistic and admin issues.

On the 16th to 18th of November, we also attended the 2018 International Hackathon for Training Next Generation Engineers, held at the Fukuoka City Science Museum. The event was very well organized, and we managed to learn a lot of new things. We are very grateful to Kurume NIT for giving us the opportunity to attend this competition.

国際交流関係

マレーシアでの国際交流に参加して
機械・電気システム工学専攻1年 酒見 真

私は昨年11月のマレーシア日本国際工科院 (Malaysia-Japan International Institute of Technology 以下 M J I I T) との国際交流に参加した。“お、アントマンの最新作見れるじゃん”... 機内の映画サービスを見ながら韓国へ向けて日本を飛び立った。韓国でトランジットした後にマレーシアへ10時間程フライトするのだが、日本-韓国間では日本語で通じた機内サービスも韓国-マレーシア間では英語でなければ通じない。海外へ行くんだなあと感じながらも、“オーシャンズエイトも見れるじゃん”といった具合に、韓国に行くときと同じ様に気になっていた映画を見ながらマレーシアへ向かった。朝に福岡国際空港を出発しマレーシアにつく頃にはすでに夜だった。到着して最初に気づいたのは飛行機の窓が結露していた事。それだけ外に湿度が多く気温も高いということであり、その事実がマレーシアへ到着した実感を湧かせた。空港からホテルの在る都心部までタクシーで移動した。タクシーの運転の荒さや原付バイクの量の多さに自分が想像してたマレーシアはこんな感じだなと思った。しかし進むにつれ見えてくるクアラ Lumpur 市内のきらびやかな高層ビル群に、私の中の勝手なマレーシア像はぶち壊された。

今回の国際交流先である M J I I T はとても巨大なキャンパスで、大型の工作機械が大量に置いてあった。交流の一環として M J I I T の日本語の授業に参加した。マレーシアは親日国であることも相まってか学生たちはとても真剣に授業を聞いていた。日本の企業のインターンシップに参加することを目標に据えるなど、とても熱意を持って勉強していた。研究室訪問も行った。私が訪問した研究室では、磁気や 5 G 回線対応アンテナ等を研究している研究室で、女性の博士と学生のみで構成されていた。後に聞いたところによると、世界におけるマレーシアでの女性の社会進出水準は高く、学者など知識を使う様な職業に多くの女性が従事している。研究室訪問に際して、一緒に訪問していた長尾と共に、日本の紹介や久留米高専の説明、自分たちの研究の説明などを行った。拙い英語にも関わらず真剣に聞いていただき、多くの質問をいただいた。私は軽い日常会話などはこなせる英語力だったが、やはり専門的な分野の会話になると分からないことが大量に増えた、今後は専門分野の単語を詳しく勉強する必要性を感じた国際交流だった。二度目のオーシャンズエイトを観ながら帰国した私は日本は静電気をもって歓迎してくれたのであった。

今回の国際交流は異文化へ接する良い機会であると同時に自分の力を試す絶好のチャンスであった。また補助金も目一杯出るので、来年度に専攻科へ入学する学生はぜひ参加してみてもいいだろう。

最後にマレーシア日本国際工科院の皆様と今回の国際交流に協力頂いた先生方に感謝を示してこの文章を締めくくりたいと思います。

次世代エンジニア育成国際ハッカソン
電気電子工学科4年 パディージャ大樹

「海外の同年代の人と交流したい。」そんな思いから次世代エンジニア育成国際ハッカソンなるイベントに参加した。「グローバルに活躍できる技術者育成」を目的としたイベントで、九州沖縄地区の高専に加え、シンガポール、香港の大学から大学生が参加した。テーマは「IoT × 防災」。三日間で小型ロボットを用いた防災問題の解決案を出し合い、デモンストレーションをして最終日にそれをステージで発表するというものだった。

久留米高専からは本科生が一人、インターンシップ生が三人参加した。当日、指定された集合場所に着いたものの、なぜか久留米高専生が自分しか居らず、初手ボッチをかまし申した。ここでもぼっちかよ。

会場に到着し、軽くレクリエーションのようなものを行った後、防災に関するアイデア出しが始まった。この時点では同じ言語話者同士でのコミュニケーションが盛んであった。出されたアイデアをもとにチーム分けが行われ、その日のアクティビティは終了した。

二日目は福岡市科学館内の部屋でチームごとのコンセプトを発表し、キットを用いてそのデモンストレーションムービーを撮影する作業だった。チームメンバーと協力してライントレースカーに絵を張り付けた何かを作った。防災とは。二日目の夕食はガチのインドカレーだった。おいしかったです。この頃になると英語が上達したわけでもないのに別の言葉を喋る者同士のコミュニケーションが活発になり、改めてコミュカの強さを認識した。ヒューマン and ヒューマンである。

最終日、チームの成果をステージで発表する。言い忘れていたが、このイベントでの発表は基本全て英語。最終日のステージ発表も例外ではない。自分のチームは幸か不幸か最初に発表することになった。まあまあ緊張した。あっ、以上です。自分たちのチームの発表が終わったとたん、お客さんが一斉に会場を後にしたため、それ以降は終始和やかな雰囲気のもとステージ発表が行われた。

最後に個人的な感想を。チームメイトの香港の大学生と漢字でコミュニケーションをとってみたい、インドネシアからの留学生にアラビア語を教わったり、香港の学生から中国のお菓子をいただいたりして、楽しかったです。(小並感)



国際交流関係

憧れのニューヨーク

一般科目(理科系)准教授 菰田 智恵子

なんとベタなタイトルをつけたものである。^{ろく}六週間のニューヨークでの英語研修から、^{ろく}六ヶ月がたち、碌な文章が書けるとは誰も思っていまい。気楽に書くことにしよう。

ニューヨークはエキサイティングな街だった。見るもの聞くものすべてに圧倒された。楽しいなんてものじゃない。日本に帰りたくないと思った。今回の英語研修に共に参加した友人と、1年間ぐらいニューヨークに住んでみたいよねと言いつつ。実際のニューヨークは、実にフレンドリーな街である。街を歩いていたら、「その服かわいい。」と通りすがりの人に褒められる。友人も「そのワンピース、どこで買ったの?」と通りすがりに突然話しかけられてびっくりしたという。人との距離感の近さに驚くばかりである。

ニューヨークはエキサイティングでフレンドリーな街だった。かたや、外国人から見て、福岡や東京はどんな街だろうか? 私がニューヨークに行って楽しかったように福岡や東京を訪れた外国人が楽しかったと思える街であって欲しい。外国人からみて日本がどう見られているか分からないが、日本が安全な国であると思われることは確かである。生まれも育ちも東京の私にとって日本橋や六本木は気持ちが落ち着いてホッとできる街である。だから、きっと、福岡生まれ・福岡育ちの学生たちにとって福岡はホッとできる街だろうと思う。実際、福岡は住みやすい街ランキングでいつも上位に入っている。ホッとできるということは、街が安全でなければ実現しない。ニューヨークで日本にいるみたいに街を歩いていたら、スリにあって一文無しになってしまう。一文無しになるだけで済めばよい。生命の危険さえ脅かされかねない。ニューヨークは、楽しい街だったが、絶えず肌身で危険も感じていた。日本がいかに安全な国であるかを思い知らされた。

コロンビア大学工学系研究室を訪問。日本の科研費相当でなんと2億円獲得した研究を率いるのは大学院博士課程の女子学生である。

左: ブロードウェイミュージカルスターとのツーショット

右: ブルーノートでのジャズシンガーとのツーショット

写真を一緒に撮って下さいと頼むとひとつ返事で応じてくれた。

ニューヨーク市立大学クイーンズ校の語学研修のクラスの仲間達と。

日本人以外のクラスメートは皆英会話ができた。日本の英語教育が読み・書き中心であることを今さらながら痛感した。



退職教員からの言葉

お世話になりました

生物応用化学科准教授 松山 清



途中下車のような退職となり、学生や教職員の皆さんには申し訳なく思っております。今となっては、支えてくれました久留米高専の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

赴任してから7年間、4、5年生の担任(進学最強でした)、就職担当(就職協定見直し直撃)、教務(モデルコア、カリキュラム改正と格闘)、平成27年度JABEE審査対応(エビデンス集めに激走)、平成29年度の卓球の高専大会の運営(久留米市卓球協会に感謝)、タイの留学生の受け入れ(留学生は優秀、まだメールくれます)等の貴重な経験をさせてもらいました。講義では、化学工学、物理化学、産業財産権等を担当させてもらいました。化学構造とパイオで頭がいっぱいな4年生に、最初はどうやってコテコテの工学的(お金儲け?)な話をするのか難題でした。講義は数式や法律ばかりでしたが、学生の皆さんはよく話を聞いてくれました(優秀なのだと思います)。たくさんの講義を担当し、平成30年度には、化学工学I(通年)、環境工学、工業物理化学II、情報化学II、化学工学概論(機械の学生さん、化学の話聞いてくれて感謝)、産業財産権入門、化学工学特論を担当させてもらい、どれも思い出の科目となりました。また、手ほどきさせてもらいました危険物取扱者(甲種)の国家試験に、多くの学生さんが合格してくれました。私自身も多くの研修(知財、インストラクションデザイン、JABEE、教学IR、学生カルテ等)に参加させてもらい、教学について多くを学ばせてもらいました。研究面では、多くのご援助いただく機会にも恵まれ、国内外の企業との共同研究や論文とすることができました。これも一緒に実験・討論をしてくれた研究室の学生の皆さんのおかげです。

最後になりますが、貴重な経験の機会を与えていただきました久留米高専の皆さんに心より感謝の気持ちを申し上げ、お別れの言葉とさせていただきます。有難うございました。

新任教職員紹介

新任教職員紹介



前田 俊哉

■所 属 学生課 ■職 名 課長

■採用日 平成30年10月1日

■前 職 有明高専学生課長

抱 負 久留米高専で5つめの高専勤務となります。久留米高専学生課では、教務係、学生生活支援係、専攻科係、学術情報係及び寮生活支援係にそれぞれスタッフが配置され、多種多様な業務を行っています。そして、その係ごとに主事・センター長など先生方の協力を得て、学生の皆さんが社会に羽ばたき出るまで先生方と連携してサポートしていきます。学生の皆さん。何か困ったことや分からないことがあれば、学生課窓口まで気軽に立ち寄ってください。

趣 味 特になし。



川村 里絵子

■所 属 総務課 研究推進係 ■職 名 主任

■採用日 平成30年10月1日

■前 職 有明工業高等専門学校
総務課調達管理係

抱 負 有明工業高等専門学校から、高専間の人事交流として転任してきました。

着任して半年近く経ちますが、学校の雰囲気や学校行事など、同じ高専でも有明高専と違うことも多く、毎日新鮮な感覚で仕事をしています。着任後まもなくの時期に開催された高専祭の盛り上がりには驚きました!

これから、まだまだ久留米高専の新しい面を見て、新しい体験ができることを楽しみにしつつ、早く仕事に慣れて皆さんのお役に立てるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味 旅行

高専祭を終えて

高専祭を終えて

高専祭実行委員長
生物応用化学科4年 鬼木 秋実

平成30年11月2日（金）から3日（土）にかけて第五十三回高専祭を開催しました。天候にも恵まれ、たくさんの方々にご来場いただきました。

今回のテーマは、「高専祭、エンドロールが似合わない～終わる平成、終わらない僕ら～」でした。エンドロール、それは映画でいうなら最後の場面。高専祭では、日々の生活で築いた技術や仲間との絆はもちろん、高専生の独特の感性、学校中に響き渡る文化の音が一層輝きます。高専生にとって、一年間で一番盛り上がるシーン。そんな一瞬一瞬が終わらない、いや終わってほしくない、そんな気持ちを表現しました。

高専祭を主導する立場となった今期、「後輩の意見を積極的に聞き、取り入れる」ということを最優先に行動しました。私の今までの経験から、自身も意見を発信したくても、先輩の意見に埋もれてしまっていたり、実行委員の人数が多いせいか一人ひとり聞いてもらえなかったり、苦い思いをしてきました。できるだけ後輩たちと同じ目線で物事を見ることができるよう、また、本音を聞くことができるよう、何をするにも後輩と共に活動することを意識しました。後輩たちの意見が取り入れられ、やりがいを覚えて実行委員が好きになり、笑顔になって、それがやがてお越しいただいた皆様の笑顔につながっていれば、この上ないです。

委員長という大役を担わせていただくことで感じた、おそらく高専でしか、学生の間でしか味わうことのできない不思議な高揚感と、決して1人では味わえない高専という組織の連帯感が作り上げるあの感動をこれから先、忘れることはないでしょう。最高の高専祭をありがとうございました。

本高専祭の大成功は、出店・ステージ出演にご協力いただいた皆さん、教職員並びに学生課の皆様、今日まで共に頑張ってくれた実行委員のみんな、そして何より、お越しいただいた皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。平成は終わりますが、後輩たちは努力を絶やすことなく、来年は更なる高専祭を見せてくれることでしょう。進化し続ける高専祭をどうぞご期待ください。To be continued...



体育祭を終えて

体育祭を終えて

体育祭実行委員会委員長
機械工学科5年 川戸 大誠

11月5日（月）秋晴れの晴天に恵まれ、第53回体育祭が開催されました。平日の開催にも関わらず、大勢の保護者の方にご来場頂きましたことをこの場をお借りして御礼と感謝申し上げます。

さて、今年度の体育祭も久留米高専らしい自由で活気あふれる体育祭となり、大変盛り上がりました。ただ、その自由さ故に校長先生をはじめ先生方に多大なるご迷惑をおかけしてしまった場面があり、体育祭実行委員一同、運営が未熟だったと深く反省しております。この反省を十分に留意して、節度を守り行き過ぎた行為が生じないように、引き継ぎを致しました。

体育祭実行委員会は総勢約40名で運営をしています。僕自身5年間、実行委員として活動をしてきました。しかしながら、まさか自分が体育祭実行委員長の大役を担うことになるとは思いませんでした。そのうえ今年度は受験勉強をしながら体育祭の企画運営を同時にしなくてはならず、とても大変でした。それでも体育祭実行委員の皆さんや各学科の団長に支えられたおかげで務め上げることができ、また人前で話することなど他に代えられない経験も沢山させて頂いたことは、僕の人生においてかけがえのない財産となりました。

ご指導をくださった先生方、学生課の職員の方々、体育祭実行委員の皆さん、各学科団長・応援団をはじめ学生の皆さん、保護者の方々や地域の方々、お世話になった皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりましたが…『高専健児！！元気はあるか～？』

『ありがとうございました！』



予餞会を終えて

予餞会を終えて

予餞会実行委員会実行委員長
機械工学科5年 田中 拓也

今年度も無事に予餞会を開催でき、多くの来場者の方々にお越しただけたことに感動と感謝を覚えています。今回の予餞会では、PR動画作成、および動画サイトへの投稿、参加いただいた5年生全員での記念撮影など今まで行ったことのない活動を行いました。また、昨年度実行委員長をして感じた知名度や関心度の低さに対向すべく、早めの広報活動をしようと心がけました。その甲斐あってか、昨年度以上の来場者数を記録することができました。さらに昨年度以上に5年生の参加率が高く、5年生コンテストも全学科出演とはならなかったものの、会場の雰囲気は非常に盛り上がっていました。当日募集のイベントにも多くの応募があり、会場が一体となって楽しむことができていたように思います。バンドに関しては、例年より1枠少なかったですが5年生を中心に助け合いながらすばらしいパフォーマンスを見せていただきました。こうやって振り返ってみると、昨年度予餞会を超える予餞会にすることができたように思います。

思えば、私が実行委員に参加したのは（色々あって）約6年も前のことです。その当時は自分自身が将来実行委員長という立場で実行委員会を運営していくことなど思いもしていませんでした。いざ私自身の実行委員会での活動が終わってみると、達成感と同時に喪失感を感じているのは否めません。しかし、運営していく中で、後輩たちの成長を肌で感じることができ、非常に頼もしくなったと感じています。来年度以降もきっとすばらしい学校行事を作り上げてくれると、彼らなら大丈夫だと信じています。そしてこの6年間でたくさんの出来事があり、非常に密度の濃い高専生活を送ることができました。その中で自分自身はきっと少しは成長することができ、様々なことを学ばせていただき、すばらしい仲間と出会うことができました。彼らには感謝しかありません。私の高専生活最後の実行委員会をこのようなすばらしい形で終えられたことを本当にうれしく思います。

最後になりましたが、今年度予餞会を運営するに当たりましてご協力いただきました先生方ならびに学生課職員の皆様、当日ご来場いただいた多くの皆様、バンドやイベントなどに出演および参加いただいた皆様、そして準備から片づけまで例年の比ではないすばらしい働きをしてくれた、実行委員のみなさんにこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました！



後期クラスマッチ

後期クラスマッチ

中央執行委員会体育局長
生物応用化学科3年 中尾 ひより

12月12日に後期クラスマッチが行われました。バレー、バスケ、女子ドッジ、大縄の5競技を行いました。サッカーは前日の雨の影響でグラウンドが使えず、中止となりました。



そして今回も熱い試合が行われていました。結果はこのようなになりました。

バレー… 1位3C、2位5C、3位4E

バスケ… 1年の部 1位1M、2位1A

2年の部 1位2A、2位2E

3年の部 1位3E、3位3A

4年の部 1位4M、2位4A

5年の部 1位5A、2位5C

女子ドッジ… 1位みぼりんと愉快的仲間たち

2位こばやしすたーず

大縄… 1位5C (30回)、2位3E (27回)、3位2A (25回)

バレーは、接戦の末に今まで一度も入賞したことがなかった3Cが優勝するという、予想外の結果となりました。大縄は冬の寒い日にもかかわらず、8クラスの参加があり、22人で力を合わせて楽しく跳んでいる姿が見られました。バスケはどの学年も白熱した試合が行われていました。

今回のクラスマッチは例年と比べて日数が少なかったため、セット数やマッチポイントを変更して競技時間を短くしなければならませんでした。初めての試みでしたが、審判の方々や学生のみなさんのご協力のおかげで大きな問題はなく、1日無事に終えることができたので良かったです。このクラスマッチで出た反省や改善点は、次の局長にも引き継いで、これからのクラスマッチをより良くするためにつなげていきたいと思っています。

最後になりますが、クラスマッチを運営するにあたって、審判をしてくださった部活動生のみなさん、試合の見守りなど協力してくださった中執のみなさんには本当に感謝しています。ありがとうございました。



寮行事

寮行事

寮生会広報委員長 今富 大介

冬の寮祭

12月8日に冬の寮祭が行われました。外国人留学生を含む寮生約160名が参加し、午前は毎年恒例の餅つきが行われ、午後からはユーズボウルへ移動しボウリング大会が行われました。

その後、バーベキューパーティを行い、学科ごとのグループに分かれて食事を行いました。学年を超えての交流は普段の生活の中でも得ることのできない貴重な時間となり、楽しく寮祭を締めくくることができました。



成人式

1月9日に新成人となる寮生へ向けての成人式が行われました。新成人が紹介され、寮長と寮務主事が激励の言葉を贈り、寮長から新成人へ記念品の贈呈が行われました。その後、新成人を囲んでの食事を楽しみました。一年生から入寮している寮生は15歳で親を離れ、同級生とともに筑水寮・つつじ寮で成長してきました。この5年間で得たものは通学生とはまた違ったものであり、これからの人生において大きな糧となるのではないのでしょうか。



包括協定を締結

九州・沖縄地区国立高等専門学校と九州大学工学系部局との包括協定を締結

平成31年2月27日（水）に九州大学伊都キャンパスにおいて、九州・沖縄地区国立高等専門学校（9校）と九州大学工学系部局（22部局）との連携協力に関する包括協定の調印式を行いました。

この協定は、九州沖縄地区の高専と九州大学との間で連携・協力を促進することにより、双方の教育研究の一層の充実を図ることを目的としており、短期研修生（インターンシップ生）の派遣及び受入れなど互恵の精神に基づき有機的に連携・協力を行っていくものです。

調印式には、高専側からは佐世保高専の東田校長、大分高専の日野校長及び久留米高専の三川校長が、九州大学側からは、久枝工学研究院長、白谷システム情報科学研究院長及び原田総合理工学研究院長の他4名の関係者が出席しました。

この協定の締結により、九州沖縄地区高専と九州大学工学系部局との連携・協力のより一層の強化が期待されます。



各種コンテスト優秀者：高専体育大会優秀者

第18回日本情報オリンピック本選
における九州・沖縄ブロック奨励賞
成績優秀者

制御情報工学科2年 樋口 陽介

今年の二月初旬に行われた日本情報オリンピック本選に参加し、九州・沖縄ブロック奨励賞成績優秀者に選ばれました。

日本情報オリンピックとは、全国の高校二年生以下が対象の競技プログラミングの大会です。十二月の予選、二月の本選、三月の春合宿と3回にわたって行われ、春合宿での成績上位者4名は国際情報オリンピック日本代表に選ばれます。

僕は、昨年末に行われた予選を通過して、本選の出場権を得ました。前回大会の予選にも参加したのですが、前回は一問しか解けず、予選敗退という結果だったので、今回の予選通過はここ一年の成長を実感することができ、それだけでもとても嬉しいものとなりました。

本選は、予選を勝ち抜いた89名が参加しました。この本選では、予選よりも難易度の高い問題が五問出題されます。今年の問題は、三問目までは例年通りといった難易度でしたが四、五問目の難易度が例年よりも高く、僕でも全然歯が立たないほどの難易度だったようです。

僕はそのうち二問を完答して、三問目の部分点15点をとって、合計215点という結果でした。二完+部分点を目標としていたのですが、それを達成でき、しかも九州・沖縄ブロック奨励賞成績優秀者に選ばれたことはとても嬉しかったです。しかし、上位20名にはあと一歩というところで入らず、春合宿に進めなかったことは、とても惜しかったために悔しさが残りました。

この一年間、競技プログラミングを続けて、特に論理的思考の能力が大きく向上したのを実感しています。そのため、競技プログラミングという存在は僕の人生にとってとても大きく、大切なものになったと思います。僕はもう三年生になるので来年度の情報オリンピックには参加できませんが、これで終わりとせず、これからも一つの趣味として競技プログラミングを楽しんでいけたらと思います。

第53回全国高等専門学校体育大会（夏季）の主な成績
（8月18日～9月2日）

バレーボール	女子	優勝（3年連続優勝）
硬式野球		準優勝

第55回九州沖縄地区高専体育大会（夏季）の主な成績
（7月5日～22日）

バレーボール	女子	優勝	全国大会出場
硬式野球		優勝	全国大会出場
バスケットボール	男子	第3位	
バスケットボール	女子	第3位	
剣道	女子団体	第3位	
陸上競技	女子100mハードル	1 S 片田 莉菜	第1位 全国大会出場
	男子100m	2 A 草場 進太郎	第2位 全国大会出場
	男子200m	2 A 草場 進太郎	第2位 全国大会出場
	男子走幅跳	3 C 大久保 晴稀	第2位 全国大会出場
	男子三段跳	3 C 大久保 晴稀	第2位 全国大会出場
	男子走高跳	3 E 齋藤 龍洋	第3位 全国大会出場
水泳	男子400m自由形	4 M 國分 雅斗	第1位 全国大会出場
	男子50m自由形	2 E 桑野 太雅	第2位 全国大会出場
	男子100m自由形	2 E 桑野 太雅	第3位
	男子4×100mリレー	4 M 國分 雅斗	第3位
		3 M 篠原 維月	
		5 S 藤村 統太	
		2 E 桑野 太雅	
柔道	男子60kg級	4 A 井手 佑介	第3位

第5回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

（7月7日～7月8日）

男子団体の部		準優勝	全国大会出場
男子個人の部	4 E 釜堀 優斗	第3位	全国大会出場

第55回九州沖縄地区高専体育大会（冬季）の主な成績
（11月10日～13日）

ラグビーフットボール		準優勝	全国大会出場
------------	--	-----	--------

平成30年度

アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト
（九州沖縄地区大会）（10月21日）

久留米高専Bチーム	ロボット名：2 エレファント		特別賞 (田中貴金属グループ)
	4 M 福田 直也		
	3 A 脇上 敦史		
	3 M 花園 楽志		

第51回九州沖縄地区高等専門学校英語プレゼンテーション
コンテスト（9月20日）

暗唱部門	2 M 松下 綾花	第1位	
	2 C 野崎 磨央	第3位	

全国高等専門学校第29回プログラミングコンテスト
（10月27日・28日）

計算じゃ解けない疑問は手と手で探るのチーム	5 S 菅野 暁 4 S 堤 幸太朗 3 S 植原 晃都	競技部門 特別賞
-----------------------	------------------------------------	----------

第19回日本数学コンクール・日本ジュニア数学コンクール論文賞

3 S 川添 裕功、3 S 植原 晃都	銀賞
---------------------	----

第10回 坊っちゃん科学賞 研究論文コンテスト

2 S 樋口 陽介、2 S 藤本 渡亜、2 S 吉田 岳広、2 S 桑原 港	佳作
--	----

Ikenobo 花の甲子園2018九州沖縄地区【北】大会

4 M 片山 遥、4 M 小川 理咲、1 M 力武 拓海	第3位
------------------------------	-----

平成31年度 大学編入学合格状況等

大 学 名	志 願 者 数						受 験 者 数						合 格 者 数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計
東北大学 (理)				2		2				2		2				0		0
東北大学 (工)	1					1	1						0					0
新潟大学 (農)				1		1				1		1				1		1
豊橋技術科学大学 (工学：推)		2		1		3		2		1		3		2		1		3
豊橋技術科学大学 (工学)	4	6	1	9	1	21	4	6	1	6	1	18	2	5	1	6	1	15
長岡技術科学大学 (工学)					1	1					1	1					1	1
九州大学 (工学：推)	1	1	1			3	1	1	1			3	1	1	0			2
九州大学 (工学)	6	5	2	3	1	17	5	5	2	3	1	16	0	1	1	2	1	5
九州大学 (理学)				1		1				1		1				0		0
九州大学 (芸術工学)	3					3	3					3	1					1
九州工業大学 (工学：推)		2				2		2				2		1				1
九州工業大学 (情報工学：推)			3			3			3			3			2			2
佐賀大学 (理工学)	2	5	1		2	10	2	5	1		2	10	2	3	1		2	8
佐賀大学 (農)				2		2				2		2				2		2
熊本大学 (工学)	6	4	1	1	1	13	3	4	1	1	1	10	2	0	1	1	1	5
大分大学 (理工)	1					1	1					1	1					1
宮崎大学 (工)	1					1	1					1	0					0
鹿児島大学 (工)	1					1	1					1	1					1
鹿児島大学 (農)				2		2				2		2				1		1
山口大学 (工学)		2	1			3		2	1			3		2	0			2
広島大学 (工学)				1		1				1		1				0		0
広島大学 (生物生産学)				3		3				3		3				2		2
愛媛大学 (工)					2	2					2	2					2	2
愛媛大学 (農)				2		2				2		2				0		0
大阪大学 (工学)		2	1			3		2	1			3		0	0			0
大阪大学 (基礎工学)	1		1			2	1		1			2	1		0			1
神戸大学 (農)				1		1				1		1				0		0
静岡大学 (農)				1		1				1		1				1		1
東京大学 (工)	3	2				5	3	2				5	0	2				2
東京農工大学 (農)				1		1				1		1				0		0
東京農工大学 (工)			1			1			1			1			0			0
東京工業大学 (工学)	1					1	1					1	1					0
東京工業大学 (理学院化学系)				2		2				2		2				1		1
東京工業大学 (物質理工学院)					1	1					1	1					1	1
東京工業大学 (生命理工学)				1		1				1		1				0		0
電気通信大学	1					1	1					1	1					1
横浜国立大学 (理工学)			1			1			1			1			0			0
筑波大学 (生命環境学群)				1		1				1		1				0		0
筑波大学 (情報学)	2		3			5	1		3			4	0		2			2
早稲田大学 (理工)			1			1			1			1			0			0
航空大学校					1	1					1	1					0	0
合 計	34	31	18	35	10	128	29	31	18	32	10	120	13	17	8	18	9	65

平成31年度 久留米高専専攻科合格状況

大 学 名	志 願 者 数						受 験 者 数						合 格 者 数					
	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計	機械	電気	制御	生化	材料	計
久留米高専専攻科 (推)	4	3	3	4	3	17	4	3	3	4	3	17	4	3	3	4	3	17
久留米高専専攻科 (学) 前期	15	15	12	11	9	62	15	15	10	11	8	59	3	9	6	8	3	29
久留米高専専攻科 (学) 後期	9	2	3	3	4	21	9	2	3	3	3	20	6	0	2	3	3	14
合 計	28	20	18	18	16	100	28	20	16	18	14	96	13	12	11	15	9	60

平成31年度 専攻科 大学院合格状況

大 学 名	受 験 者 数			合 格 者 数		
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	計
九州大学大学院 (総理工：推)		3	3		3	3
九州大学大学院 (総理工)	4	3	7	4	3	7
九州大学大学院 (システム生命科学：推)		1	1		1	1
九州大学大学院 (システム情報科学)	1		1	1		1
九州大学大学院 (新領域学府)	2	1	3	0	1	1
九州大学大学院 (工学府)	1	1	2	1	1	2
東北大学 (工学研究科：推)	1		1	1		1
東京工業大学大学院 (物質理工学院)		1	1		1	1
東京工業大学大学院	2		2	0		0
大阪大学大学院 (工学研究科：推)	1	1	2	1	1	2
大阪大学大学院 (工学研究科)	1	1	2	1	1	2
早稲田大学大学院 (情報生産システム研究科)	1	1	2	1	1	2
熊本大学大学院 (自然科学教育部)	1		1	1		1
合 計	15	13	28	11	13	24

平成30年度(平成31年 3 月)卒業予定者の就職内定状況

平成31年 2 月 現在

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
株式会社湯山製作所 株式会社OGCTS 株式会社モビテック ファナック株式会社 日本精工九州株式会社 川崎重工株式会社 昭栄化学工業株式会社 株式会社カシワジ ヤンマー建機株式会社 NOK株式会社 株式会社アスパーク 東海旅客鉄道株式会社(JR東海) ダイキンエアテクノ株式会社 キャノン株式会社 新菱冷熱工業株式会社 日産自動車株式会社	浜松ホトニクス株式会社 株式会社エム・システム技研 SUBARUテクノ株式会社 キャノンメディカルシステムズ株式会社 株式会社栄電舎 中部電力株式会社 西部ガス株式会社 日鉄住金ハード株式会社 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 新日鐵住金株式会社 株式会社日立ハイテクフィロディング 株式会社オーレック 株式会社デンロ コーポレーション キャノンシステムアンドサポート株式会社	東芝プラントシステム株式会社 NECフィロディング株式会社 パナソニック株式会社コネクティッドソリューションズ社 SUBARUテクノ株式会社 株式会社NHKメディアテクノロジ 鳥越製粉株式会社 浜松ホトニクス株式会社 チームラボ株式会社 ファナック株式会社 株式会社MJC 株式会社ラクーン 三井化学株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー(NTT-ME) 株式会社日産オートモーティブテクノロジ KDDIエンジニアリング株式会社 第一精工株式会社	株式会社メディサイエンスプランニング 日東電工株式会社 出光興産株式会社 協和発酵バイオ株式会社 アステラス ファーマ テック株式会社 昭栄化学工業株式会社 JNCエンジニアリング株式会社 大日精化工業株式会社 株式会社三井化学分析センター JXTGエネルギー株式会社 株式会社東洋新薬	NOK株式会社 株式会社三松 大日精化工業株式会社 久留米ガス株式会社 日本タンクステン株式会社 JX金属株式会社 大東化成工業株式会社 ダイキン工業株式会社 アスカコーポレーション株式会社 ディップソール株式会社 三井金属鉱業株式会社 日産自動車株式会社 株式会社中山製鋼所 DOWAサーモエンジニアリング株式会社 田中鉄工株式会社 株式会社アーレスティ 株式会社佐賀鉄工所 日本精工株式会社 新日鐵住金株式会社 東洋製鋼株式会社

順不同

平成30年度(平成31年 3 月)専攻科修了予定者の就職内定状況

平成31年 2 月 現在

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
株式会社ジャパンセミコンダクター 株式会社安川電機 マツダ株式会社 キャノン株式会社 株式会社ティール・エス・ジー 西部電機株式会社	横浜ゴム株式会社 昭栄化学工業株式会社 KMバイオロジクス株式会社 川重テクノロジ株式会社 株式会社ジェイテクト

順不同

本号掲載記事の無断転載を禁止します